

月報

ケルン・ボン日本語
キリスト教会

二〇二三年八月二八日

「大いに考えさせられた八月」

佐々木 良子

現在、私たちの教会の礼拝説教箇所は、昨年からルカによる福音書を順番に読み進めています。八月一三日は、六章二七〜三六節でした。冒頭、「敵を愛し、あなたがたを憎む者に親切にしなさい。」(二七節)と始まり、「…あなたがたの父が憐れみ深いように、あなたがたも憐れみ深い者となりなさい。」と、三六節まで続くイエスさまからの戒めです。実に戸惑いを覚えると同時に、この世でどのように適合させたらよいのかと悩む箇所です。

奇しくも、この御言葉が与えられる一週間前、私は「ヨーロッパ・キリスト者の集い」に参加し、特別講演として、ウクライナ・オデッサで現地の方に伝道しておられる船越真人宣教師から苛酷な戦争現状をお聞きしたばかりだったので。

数知れない傷ついた人々の涙を目の当たりにして、心が張り裂ける痛みと同時に人間同士の対立が満ちたこの世界に対して憤りを覚えました。そのようなやるせない気持ちの中で与えられたのが、先ほどのルカによる福音書の御言葉でした。

そして、八月は日本の教会では、戦争の悲しみと平和の大切さが刻み込まれた月として第一主日には、「平和聖日記念礼拝」をお捧げしていると思います。私たちは八月一日・終戦記念日の後、八月二〇日に平和について、エフエソの信

徒への手紙の御言葉から「平和」についてお聞きしました。

「じつに、キリストはわたしたちの平和であります。二つのものを一つにし、御自分の肉において敵意という隔ての壁を取り崩し…」(二章一四節)と記されています。平和は、イエスさまご自身の十字架上の犠牲のもとに、神が作り出され打ち立てられるものであると明確に語られています。

平和の実現のためには、御子である「イエス・キリストの血」が必要だったと語っています。人間同士が、「仲よく平和に過ごそう」と、掛け声だけでは平和は到来しません。イエス・キリストの血が必要であり、イエス・キリストというお方の命が伴って実現するということです。ですから神との関係によってのみ平和が実現できることを心に留めなければならぬのです。

自分こそが正しいと自己主張したり、自分の思いを通そうと相手をねじ込めようしたり、批判している限り、敵を赦すことも、平和を生み出すこともできないことを私たちは経験しています。そのような罪深い人間を見捨てることなく、神さまの方から一方的に私たちを愛し、罪を赦してくださるためにイエスさまをこの世にお遣わしになりました。神の愛の中で生きることができるようにとしてくださるためです。私たちの本場の居場所神の愛の御手の中です。

「神は、独り子を世にお遣わしになりました。その方によって、わたしたちが生きるようになるためです。ここに、神の愛がわたしたちの内に示されました。わたしたちが神を愛したのではなく、神がわたしたちを愛して、わたしたちの罪を償ういけにえとして、御子をお遣わしになりました。ここに愛があります。」(第一ヨハネの手紙四章九〜一〇節)

人はこの神の愛と恵みを深く思い知った時、生まれつきの自分の感情に支配されることなく、お互いを尊重し思いやることができるようになります。初めて人を裁かず、相手を見下すことなく、心一つに合わせる事が可能になります。

ロシアによる侵攻が始まって以来、一日も早く収束し平和が訪れるようにと、教会の方々と祈っています。しかし、皆さまが口を揃えて、「どのように祈ったらよいのか分かりません。」と仰っていました。実のところ私も何をどのように祈ったらよいのか確信をもった祈りができず、あまりにも通り一遍の祈りだったので。

しかし、今は平和の祈りとして、「神が差し出してくださった愛を全ての人が受け取り、神の愛の中で生きることができるようになる」という確信をもった祈りを捧げられるようになった気がします。そして、最近の聖書の学び会でそのことを教会の方々と共有できたように思っています。ある方は、「御国が早くきますようにと祈らなければ」と言及されました。

今こそ私たち信仰者が真剣にこのことを祈り求めていったら、やがてこの世に平和が訪れると信じます。神に祈り、賛美し、神の御業を待ちのぞみます。



8月20日、私たちのような外国人語教会を統括されているLee先生ご夫妻が礼拝においでくださり、一緒に「キリストにある平和」を共有することができました。



礼拝後の豊かなお交わり

キルヘンターク・プロテスタント教会大会に参加して

佐々木 良子

キルヘンタークは、エキュメニズムの取り組みの一つで一九四九年に設立され、ドイツの州で隔年開催され、今年は六月七日〜一日まで、ドイツ中南部・ニュルンベルクで開催されました。

今回のテーマである「今がその時」「時は成就した」(マルコによる福音書一章一五節)に基づき、市内の二〇〇〇の会場で、礼拝、聖書研究や討論会等の集会、賛美、祈り、コンサート等、豊富なプログラムが用意されていました。

南アフリカ出身の黒人牧師の閉会礼拝でのメッセージは、気候危機、戦争、人種差別等の課題に対して、勇気を持って立ち向かうようにとの呼びかけでした。他の礼拝でも、「聖書・賛美・沈黙」を繰り返して、困難な時代に生かされている一人ひとりが今、何ができるか、ということを考えさせられるものでした。

滞在中の宿泊に関して、予め大会本部にはホームステイを希望していましたが、解答は、体育館



ホームステイ先のSさんと加納和寛牧師・美巳姉と閉会礼拝にて

での寝泊りでした。それに驚き、寝袋と食器を持参するようにとの但し書きに唖然。そもそも寝袋を持っていませんし、若い人たちとの合宿生活のようなものは無理…と。

本部に変更をお願いしようと思いましたが、前に迫っていたので、自力で何とかしようと考えました。知り合いのドイツ人C宣教師のお友だちがニュルンベルクにお住まいであることをお聞きしたことがあったので、C宣教師にお友だちに相談して頂けないかとお願いました。結果、直ぐにお友だちのSさんが快く受け入れてくださり、とても助けられました。そうして、私は四日間、寝袋ではなくてベットで眠ることができ快適な日々を過ごさせて頂きました。

しかしながら滞在中、私は何とも頓珍漢なことばかりでした。そのお宅の周辺は分かり易い目印になる建物がなく、方向音痴の私は案の定、夜道で迷子になりました。グーグルマップは「目的地到着」と、それ以上の案内がなく、辺りは真っ暗、車も人も通らず、自力では帰れなくなり、夜遅い時間にも拘わらず、電話をかけて迎えに来て頂くことになりました。後程、お宅のすぐ近くにいたことが分かったのですが、しかし、辿り付けなかった私…。

またある時は、その方も集會に参加されるので、帰宅時間がお互いに読めないために、合い鍵をもって行くようにと言われ、調子よく「は〜い!!!」と。玄関脇にかけられている複数の鍵から、その一つをもって出かけました。暫くしてから、携帯に「あなたの持っているものは、自動車の鍵で、意味ありませんね。」と連絡が入り真っ青に。「庭に面している扉を開けておくのでそこから家に入るように」とのメッセージを頂きました。

他にも色々な珍事…。僅かな滞在中、何回もお手数かけることになったのですが、その度に、

「大丈夫、問題ないから」と、笑顔でスルーしてください。救われた思いになりました。

日本人と接するのは初めてで、その上拙いドイツ語と、訳の分からないことをする日本人が急におしにかけて、恐ろしく戸惑ったと思われま。しかしながらそんなことにも動じず、大きな愛で包んでくださるSさんでした。

大会終了後、駅まで送っていただきました。お礼の言葉を述べると共に「私に振り返られてさぞかしお疲れになったことでしょう。やっとゆっくりできますね」と伝えられ、「私は退職しているの、いつもゆっくりしているから大丈夫」というお返事でした。たくさんの思いやりと優しさを頂いた四日間でした。その方からの溢れるほどの隣人愛を携えて帰路につきました。

エキュメニカル礼拝：キルヘンターク二〇二三より

加納 和寛

ニュルンベルク市は一七世紀以来のルター派の街ですが、市が属しているバイエルン州はカトリックが大多数であり、市内にも幾つかのカトリック教会があります。

キルヘンタークはプロテスタントの催しですが、エキュメニカルな礼拝も毎回行われており、踏み込んだ内容の礼拝が時に大きな話題になることがあります。

今回は二日目の一時から、主会場の一つである聖ローレンツ教会で行われ



聖ローレンツ教会

た、最も大規模なエキュメニカル礼拝に佐々木先生および妻と一緒に行くことにしました。

事前にプログラムを確認すると、会場である教会の近くの別の屋外会場で九時十五分から「聖餐式」があると別の欄に書かれていました。そこで何気なくその屋外会場に行ったらとこころ、仮設舞台では十人あまりの司祭たちなどによるカトリックのミサが行われ、途中で司祭たちは舞台の下に降り、数百人の一般参加者（おそらく大半はプロテスタント）に何も尋ねずに次々とパンを配りました。

その後ふつうはミサを閉じる祝祷がされるのですが、それをせずにカトリックの司祭団たちは行列を作って聖ローレンツ教会に向かいましたので、私もその後を追いました。

教会ではプロテスタントその他の聖職者たちが礼拝の用意を整えて待つており、カトリックの司祭団が到着すると、プログラムで予告されていた礼拝が始まりました。冒頭でカトリックの司祭が「先ほど私たちは広場で礼拝をしてきましたが、それとこの礼拝は別ではなく一つであると思っています」と挨拶すると、会場からは大きな拍手が起きました。礼拝説教はカトリックの司祭とプロテスタントの牧師が対談のような形で「懸け橋」について話し、聖書朗読や祈りでは他教派の女性聖職者なども積極的な役割を果たしていました。制度や組織の面では教派・教会の合同はなかなか進展しないように見えますが、実践的な取り組みの巧みさには驚嘆するばかりでした。

キルヘンタークに参加して

加納 美巳

ドイツに来て二か月が経とうとしていた六月、キルヘンタークに参加しました。こちらの生活にも少しずつ慣れてきた頃でしたが、初めての旅行が『プロテスタント教会のクリスマスチャンがドイツ中から集まる』という聞いたことも見たこともないイベントへの参加となり、未知の体験にワクワクしていました。

とはいっても、ドイツ語をほとんど勉強していない私は、最初から「雰囲気と美味しいものを味わいに行く」のを今回の目的にしています。

一日目の開会礼拝では、その桁違いのスケールに圧倒され、頭では理解しているのに「ここにいる人は皆クリスマスチャンなんだよね？」と何度も隣にいる夫に聞き返してしまいました。

街中が共に集える喜びに沸いている空気に包まれているのをヒシヒシと感じつつも、私は町の名前を冠した「ニュルンベルガーソーゼージ」を食べたい一心で、晩御飯に入ったお店でメニユーを探しました。そこでは「スープ煮ソーゼージ」なるものを注文し、ドイツ料理に欠かせないザウワークラウト（酸っぱいキャベツ）と一緒にコンソメスープで温められたソーゼージをいただきました。同じソーゼージでも焼いたものよりハーブの香りが引き立つように感じ、とても美味かったです。

ですが、食いしん坊を負する私はやっぱり「焼いた方も食べたい！」という気持ちちは抑えきれず、別の



日に、別のレストランで熱々の鉄板に敷かれたザウワークラウトの上に乗った「焼いた方」も堪能しました。

五日間の集いでは、町中が祝福に満たされている空気を肌で感じる事ができ、ソーゼージの味と共に私のドイツ生活のページ目じりから刻まれました。二年に一度の開催の年にドイツに来られたことを心から感謝しています。ごちそうさま、おっと間違えた、「ありがとうございませう。」

三年ぶりの教会祭り

シュミット亜弥子

夏休みに入る一週間前の日曜日にこの地区では教会祭りがあります。数年前からカトリックとプロテスタントが場所を交互に提供し一緒に開催しています。毎年私達日本語教会も出店し協力しています。コロナ明けの今年の場所は初めて行くカトリック教会でした。

礼拝はそれぞれの教会で行い、プロテスタントは四〇名ほどの堅信式の青少年が中心で活発な明るい礼拝でした。私達がお借りしている教会前のお祭りは勝手も良く知っているのですが、配はないですが、初めての場所はパーキングの事、食材を前もってここに置くか、天気はどうかと色々考え

てしまいました。当日は暑い天気でしたがテントを設営して下さったので大丈夫でした。今回も焼きそ



ばと寿司類を出品しました。

焼きそばは当日来られる数人にスパゲッティを二袋ずつ茹でてきて頂き、野菜はキャベツ、ピーマン、人参です。日本からの焼きそばの素の粉末を使い、とても好評でした。

まさ寿司は藤井弘子さんが一人で二〇本も作って来て下さいました。ドイツは菜食主義の人も多く二時間位で完売でした。今年は毎年手伝って下さる二、三人の方が来れず寂しいですが、私達九名で乗り越えました、感謝です。Gottsei Dank

韓国料理店「SONAMU」オープン

金 聖恩・金 ジョン

元々韓国に完全帰国を一月に計画していた私達夫婦に、お店の方から新しい店舗での仕事を頼まれて主のご計画だと信じてドイツに残ることとなりました。

勿論教会のことも心配でしたので、ドイツに残ることを教会の皆さんにお話したとき皆さんは心から喜んでくださいました。

オープンして三ヶ月ほど経ちましたけどまだまだ色んなところで不協和音が生じることもありますが、もうまた美しいハーモニに変えてくださる主を信じて参りたいと思います。ここでの経験を重ねて、どこでも生かせるものにしたいたいと願います。



Dortmund にいらした時は是非お立ち寄りください!

◇ 報 告 ◇

◇五月一四日・礼拝後、スカイプにて懇談会を行ないました。

◇六月からの礼拝は、全ての週を会堂でお捧げすることにになりました。尚、スカイプの同時配信は継続します。

◇佐々木牧師は、五月一九日、「バルセロナ日本語で聖書を読む会」にて説教のご奉仕をしました。会場は、サクララファミリア寺院 地下聖堂にて行いました。

◇六月四日、礼拝にて役員就任式を執り行いました。今年の役員は、藤井隼人兄、シュミット亜弥子姉、外間久美子姉、新しく金聖恩姉が加わりました。

◇六月七日、一日に開催されたドイツ・プロテスタント教会大会に佐々木牧師、加納和寛牧師・美巳姉が参加しました。そのために六月一日の説教は、浅野康牧師 (BIBLE & WORSHIP STUTTGART) が担当してくださいました。

◇六月一八日、Paul-Gerhardt 教会にて合同礼拝後、教会通りのお祭りが St. Stephan 教会にて行われ、私たちの教会は焼きそば、押しすし、のり巻きを販売しました。

◇八月三日〜六日まで、ヨーロッパキリスト者の集いに佐々木牧師が参加しました。六日の説教は、シュテックレ・コーン宣教師が担当してくださいました。

◇八月一〇日、外国語教会を担当しておられる Evangelische Kirche im Rheinland の Mike K. Lee 先生ご夫妻が礼拝にいらっしやう、その後、軽食を囲みながら和気藹々と楽しいお交わりの時となりました。

◇八月二一日〜二七日まで、東京神学大学神学生 Eiko、小野恵理子神学生が、佐々木牧師宅にホームステイし、八月二七日の主日礼拝にて証しと説教のご奉仕を担っていただきました。

蚤の市のご案内 十一月一日(水・祝日) 午後二時より

会場 ボンハッファー教会(当教会の礼拝場所) 内容 蚤の市 古本

※ 昨年より、食堂は中止とし、土産用の日本食を少し予定しています。

※ ご家庭でお使いになつていない品物(衣類を除く)がありましたら、ご協力お願いいたします。詳細は、直接教会にお問合せください。

◇ 編集後記 ◇

子どもたちの学校が始まりました。長い夏休みの間に、心も身体も大きく成長して進級したことでしよう。「たとえわたしたちの『外なる人』は衰えていくとしても、わたしたちの内なる人』は日々新たにされていきます。」(IIコリント四・一六)のごとく、わたしたちは、心の成長を指して参りましょう! (佐々木良子)

発行:ケルン・ボン日本語キリスト教会役員会
Japanische Evangelische Gemeinde
Köln/Bonn e.V.

<主日公同礼拝>

会場: Dietrich Bonhoeffer Kirche
住所: An der Decksteiner Mühle 1 / 50935
Köln (Lindenthal) Germany
電話: 0221-430319 (礼拝前後のみ)
時間: 毎週日曜日 14:00-15:00
<牧師> 佐々木良子 (Pfarrerin Ryoko Sasaki)
牧師宅: Breslauer Str.26. 50858 Köln
固定電話: 02234-9298792
携帯電話 0151-2910 6278
E-mail r310130s@gmail.com
<ホームページ> http://koelnbonn.jp/
<振り込み口座>
IBAN: DE97 3601 0043 0587 6034 38
BIC: PBNKDEFF